



## コラボスペースInterface Toolkit リファレンスガイド ArcSuite 4.0

## はじめに

このたびは富士フィルムビジネスイノベーションのArcSuite®をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。

ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえでのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。

コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメント一括操作ツール、連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Microsoft、Excel、Windows、およびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

### ご注意

- ・ 本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
- ・ 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・ 本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OSのバージョンによって異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フィルム株式会社の登録商標または商標です。

ArcSuite、およびDocuWorksは、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

## 著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。

(c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

## マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。

マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。

主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウザの操作画面にある [ヘルプ] から表示できます。

**補足** お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

### ■ 管理者ユーザー向け

名称	概要
セットアップガイド	本製品全体のセットアップ方法について説明しています。
システム管理者ガイド	リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについて説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理者ガイド	ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマンドについて説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ	サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ	クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
オフラインバックアップ・リストア運用ガイド	オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
リソース管理アプリケーションのヘルプ	ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編集、検索について説明しています。
ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ	ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。
メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ	メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのプール管理、メッセージテンプレートの設定について説明しています。
ポータル管理アプリケーションのヘルプ	ユーザープロフィールに表示する項目の設定、お知らせの設定について説明しています。
ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ	属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
表示アプリケーション管理ツールのヘルプ	表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について説明しています。
ログ管理アプリケーションのヘルプ	ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で取得する機能について説明しています。

名称	概要
監視ツールのヘルプ	ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベースの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明しています。
ドキュメントスペースドキュメント操作URLリファレンスガイド	ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
オンラインバックアップ・リストア運用ガイド	オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
e-文書法対応 概要説明書	e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明しています。
コラボスペース管理アプリケーションのヘルプ	コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッセージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。
ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ	ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。
キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ	キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明しています。
統合検索サービス管理アプリケーションのヘルプ	統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド	コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
ワークフロー操作URLリファレンスガイド	ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
Webサービスインターフェイスリファレンスガイド	ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明しています。
ドキュメント管理サービスSDKリファレンスガイド	ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
コラボスペースInterface Toolkitリファレンスガイド (本書)	コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
ワークフロー Interface Toolkitリファレンスガイド	ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。

## ■ クライアントユーザー向け

名称	概要
ポータル画面のヘルプ	ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロフィールを変更する操作について説明しています。 Webブラウザの操作画面にある [ヘルプ] から参照してください。
アドレス帳のヘルプ	アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスクを検索する操作について説明しています。
ドキュメントスペースのヘルプ	ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメントを管理する機能の操作について説明しています。
表示アプリケーションのヘルプ	表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集する操作、およびユーザー設定について説明しています。
検索条件式のヘルプ	ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。

名称	概要
簡易操作のヘルプ	簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面の設定方法について説明しています。
コラボスペースのヘルプ	コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索などの操作について説明しています。
ワークフローのヘルプ	ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、作業を実行する操作について説明しています。
ドキュメント一括操作ツール説明書	Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理する操作について説明しています。
デスクトップクライアント セットアップガイド	デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明しています。
デスクトップクライアント 操作説明書	デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォルダやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorks セットアップガイド	連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorksの ヘルプ (*1)	DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操作する方法について説明しています。

\* 1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

## 本書の使い方

本書は、ArcSuiteをより効果的にご活用いただくことを目的として、ArcSuiteのコラボスペース Interface Toolkitの概要やインターフェイスを説明しています。

本書は、ArcSuiteのコラボスペース Interface Toolkitについて説明しています。コラボスペース Interface Toolkitを使用するときに、本書をお読みください。

### ■ 本書の構成

本書は、次の章、付録から構成されています。

#### [1 コラボスペース Interface Toolkit の概要](#)

コラボスペースInterface Toolkitの概要について説明しています。

#### [2 引数、実行パラメーターの表記方法](#)

コラボスペースInterface Toolkitで使用するデータを詳細に説明しています。

#### [3 オブジェクト操作コマンドを実行する](#)

コラボスペースInterface Toolkitで使用するオブジェクト操作コマンドの実行方法について説明しています。

#### [付録](#)

コラボスペースInterface Toolkitのインストールとアンインストールの方法、ArcSuiteのコラボスペースタスク操作URLのうち、『コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド』に記載されていない機能、およびWindowsのファイアウォール機能に対する設定内容について説明しています。

## ■ 本書の表記

- ・ 本書では、次の記号を使用しています。

< > キー	キーボードのキーを表します。 例：<Enter>キーを押します。
[ ]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例：[新規作成] をクリックします。
[ ]	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例：「1.2 システム構成」を参照してください。 「名前が指定されていません。」と表示されます。
『 』	参照するマニュアルの名前を表します。 例：『システム管理者ガイド』を参照してください。
{ }	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：[{ユーザー名}] をクリックします。
>	メニューやWebページの階層を表します。 例：[システムとセキュリティ] > [管理ツール]
<b>注記</b>	一般的な注意事項を表します。
<b>補足</b>	機能や操作に関する補足説明を表します。
<b>参照</b>	参照する事項があることを表します。
_____	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例： <a href="#">1 概要</a> (P.6)

- ・ Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- ・ パーソナルコンピューターを「PC」と表記しています。
- ・ お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。
- ・ 特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です。

# 目次

## 1 コラボスペースInterface Toolkitの概要

1.1 概要.....	12
タスク情報取得 .....	12
タスク作成.....	12
タスク情報変更 .....	12
遂行状態変更.....	12
タスク接続切断 .....	12
メッセージ取得 .....	12
メッセージ登録 .....	12
メッセージ更新 .....	12
添付ファイル取得.....	12
検索.....	12
コンテンツ削除 .....	12
1.2 操作上の留意点.....	13
ライセンスチェック、アクセス権に対する注意 .....	13
サイト依存情報に対する注意 .....	13
サーバーとの接続性に関する注意 .....	13
ユーザーアカウント制御 (UAC) に対する注意 .....	13
1.3 コマンドの実行方法.....	14
コマンドの実行方法.....	14

## 2 引数、実行パラメーターの表記方法

2.1 引数の表記方法.....	16
2.2 実行パラメーターの表記方法 .....	18
2.2.1 parameter 要素.....	18
2.2.2 serverName 要素.....	19
2.2.3 logFile 要素.....	19
2.2.4 resultFile 要素 .....	19
2.2.5 systemProperty 要素.....	19
2.2.6 userTaskAttrs 要素.....	19
2.2.7 userTaskAttr 要素.....	19
2.2.8 charset 要素 .....	20
2.2.9 csvCharset 要素.....	20

## 3 オブジェクト操作コマンドを実行する

3.1 タスク情報取得.....	22
コマンド形式.....	22
コマンドパラメーター .....	22
コマンド戻り値 .....	22
エラー .....	22
備考.....	22
操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター .....	23
出力ファイルの形式 .....	24
3.2 タスク作成.....	26
コマンド形式.....	26
コマンドパラメーター .....	26
コマンド戻り値 .....	26
エラー .....	26

	備考.....	26
	操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター.....	27
	タスク関与者ファイルのパラメーター.....	28
	タスク説明メッセージファイルのパラメーター.....	29
	出力ファイルの形式.....	29
<b>3.3</b>	<b>タスク情報変更.....</b>	<b>30</b>
	コマンド形式.....	30
	コマンドパラメーター.....	30
	コマンド戻り値.....	30
	エラー.....	30
	備考.....	30
	操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター.....	31
	タスク関与者ファイルのパラメーター.....	32
	タスク説明メッセージファイル.....	32
	出力ファイルの形式.....	32
<b>3.4</b>	<b>遂行状態変更.....</b>	<b>33</b>
	コマンド形式.....	33
	コマンドパラメーター.....	33
	コマンド戻り値.....	33
	エラー.....	33
	備考.....	33
	操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター.....	34
	出力ファイルの形式.....	34
<b>3.5</b>	<b>タスク接続・切断.....</b>	<b>35</b>
	コマンド形式.....	35
	コマンドパラメーター.....	35
	コマンド戻り値.....	35
	エラー.....	35
	備考.....	35
	操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター.....	36
	出力ファイルの形式.....	36
<b>3.6</b>	<b>メッセージ取得.....</b>	<b>37</b>
	コマンド形式.....	37
	コマンドパラメーター.....	37
	コマンド戻り値.....	37
	エラー.....	37
	備考.....	37
	操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター.....	38
	出力ファイルの形式.....	39
<b>3.7</b>	<b>メッセージ登録.....</b>	<b>40</b>
	コマンド形式.....	40
	コマンドパラメーター.....	40
	コマンド戻り値.....	40
	エラー.....	40
	備考.....	40
	操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター.....	41
	通知先指定ファイルの形式.....	42
	出力ファイルの形式.....	42
<b>3.8</b>	<b>メッセージ更新.....</b>	<b>43</b>
	コマンド形式.....	43
	コマンドパラメーター.....	43

コマンド戻り値 .....	43
エラー .....	43
備考 .....	43
操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター .....	44
通知先指定ファイルの形式 .....	45
出力ファイルの形式 .....	45
<b>3.9 添付ファイル取得 .....</b>	<b>46</b>
コマンド形式 .....	46
コマンドパラメーター .....	46
コマンド戻り値 .....	46
エラー .....	46
備考 .....	46
操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター .....	47
出力ファイルの形式 .....	47
<b>3.10 検索 .....</b>	<b>48</b>
コマンド形式 .....	48
コマンドパラメーター .....	48
コマンド戻り値 .....	48
エラー .....	48
備考 .....	48
操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター .....	49
出力ファイルの形式 .....	50
<b>3.11 コンテンツ削除 .....</b>	<b>51</b>
コマンド形式 .....	51
コマンドパラメーター .....	51
コマンド戻り値 .....	51
エラー .....	51
備考 .....	51
操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター .....	52
出力ファイルの形式 .....	52
<b>3.12 機能上の制約 .....</b>	<b>53</b>
操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーターについて .....	53
出力ファイルとログでのリクエスト行について .....	53

## 付録

<b>付録A インストールとアンインストール .....</b>	<b>55</b>
付録 A.1 インストールの前に確認すること .....	55
付録 A.2 インストール .....	56
付録 A.3 インストールの内容 .....	57
付録 A.4 アンインストール .....	57
付録 A.5 バージョンアップ .....	58
<b>付録B コラボスペースタスク操作 URL (更新機能) .....</b>	<b>59</b>
付録 B.1 コラボスペースタスク操作 URL の概要 .....	59
付録 B.1.1 概要 .....	59
付録 B.1.2 インストール方法 .....	59
付録 B.1.3 操作上の留意点 .....	59
付録 B.2 引数の表記方法 .....	59
付録 B.2.1 引数の表記方法 .....	59
付録 B.3 コラボスペースタスク操作 URL のインターフェイス詳細 .....	59

---

付録 B.3.1 共通ユーザーインターフェイス.....	59
付録 B.3.2 URL インターフェイス .....	60
付録 B.3.3 タスク・遂行状態変更 .....	60
パス.....	60
引数形式 1.....	60
引数形式 2.....	61
<b>付録C Windowsのファイアウォール機能に対する設定内容 .....</b>	<b>62</b>
付録 C.1 Windows のファイアウォール機能について .....	62
付録 C.2 「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」 に対する設定.....	62
付録 C.3 「Windows ファイアウォール」 に対する設定.....	64
付録 C.4 登録される「例外」、「規則」 一覧 .....	64
付録 C.4.1 プログラムを指定して登録される「例外」、「規則」 の一覧.....	64

# 1 コラボスペースInterface Toolkitの概要

コラボスペースInterface Toolkitとは、コラボスペースのタスク作成やメッセージ取得などのオブジェクトの操作などを、コマンド操作によって処理するためのツールです。

# 1.1 概要

---

コラボスペースInterface Toolkitで利用できる操作の概要について説明します。

## タスク情報取得

指定条件に合ったタスクの情報を取得します。

条件として、タスクIDのほかに、上位タスク、下位タスク、関与タイプを指定できます。

## タスク作成

指定された情報でタスクを作成します。

## タスク情報変更

タスクIDで指定されたタスクの情報を変更します。本機能はタスク状態変更・関与者情報の変更を含みます。

## 遂行状態変更

タスクIDで指定されたタスクのメンバーの遂行状態を変更します。

## タスク接続切断

タスクの上下関係を接続または切断します。アクセス権による接続または切断の可否は、コラボスペースアプリケーションのルールに従います。

## メッセージ取得

contentIdで指定されたメッセージ、またはタスクIdで指定されたタスク中のメッセージを取得します。

アクセス権によるメッセージの取得の可否については、コラボスペースアプリケーションのルールに従います。

## メッセージ登録

新規メッセージを登録します。新規メッセージ登録、返信メッセージ登録が可能です。

アクセス権によるメッセージ登録の可否については、コラボスペースアプリケーションのルールに従います。

## メッセージ更新

既存のメッセージを更新します。

アクセス権によるメッセージ登録の可否については、コラボスペースアプリケーションのルールに従います。

## 添付ファイル取得

指定されたメッセージの添付ファイルを取得します。アクセス権による添付ファイルの取得の可否については、コラボスペースアプリケーションのルールに従います。

## 検索

指定された条件で検索を行います。

## コンテンツ削除

指定されたコンテンツ（メッセージ、添付ファイル、または関連リンク）を削除します。アクセス権によるコンテンツ削除の可否については、コラボスペースアプリケーションのルールに従います。

## 1.2 操作上の留意点

コラボスペースInterface Toolkitの使用時の注意事項について説明します。

### ライセンスチェック、アクセス権に対する注意

各アプリケーションのライセンスチェックとアクセス権を確認してください。

開発者と使用者が異なる場合や、両者の権利が異なる場合には、開発時に動作した機能が使用者によっては動作しないことがあります。

開発者は使用者の環境で開発する必要があります。

### サイト依存情報に対する注意

引数として使用するタスクID、コンテンツID、タスク属性、メッセージ属性はすべてサイトに依存する情報です。コラボスペースInterface Toolkitで、これらの情報を取得する手段は提供しません。

### サーバーとの接続性に関する注意

コラボスペースInterface Toolkitを使用するPCは、コラボスペースがインストールされているサーバー、およびドキュメント管理サービスがインストールされているサーバーとIPで通信できる必要があります。

### ユーザーアカウント制御（UAC）に対する注意

Windowsの機能であるユーザーアカウント制御（UAC）によって、コラボスペースInterface Toolkitにアクセスできなったり、起動に失敗したりすることがあります。

この場合、運用上のセキュリティポリシーに沿って、管理者特権でコラボスペースInterface Toolkitにアクセスして実行するための措置を行う必要があります。

**参照** UACに関する設定については、『セットアップガイド』を参照してください。

## 1.3 コマンドの実行方法

コラボスペースInterface Toolkitで使用する、コマンド操作の実行方法について説明します。

### コマンドの実行方法

各コマンド（バッチファイル）の実行手順は、次のとおりです。

1. コラボスペース Interface Toolkit をインストールした PC に、コマンドを実行するユーザーでサインインします。

**注記** コマンドを実行するユーザー名には、全角スペースまたは次の文字を含めないでください。全角スペースまたは次の文字が含まれていると、コマンドを実行したときにエラーになります。  
 √ (全称記号)、— (ダッシュ)、一 (漢数字の1)、稀、紀、儀、言、最、部、需、退、刀、謀、堀、耀、椀、囿、愀、戀、攀、簀、蜀、B (ギリシャ字のベータ)、T (ギリシャ字のタウ)、逢、栢、漢、索、嬢、琢、夢、尢、崢、榲、槁、癩、滕、菴、籠、蠹、錢、鬢

**補足** ・コマンドは、Windows の標準アカウント以上の権限のあるユーザーで実行できます。

2. [管理者：コマンド プロンプト] 画面を表示します。

#### ◆ Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows 10 の場合

- (1) Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。

#### ◆ Windows 8.1 の場合

- (1) Windows のスタート画面で、左下に表示された [↓] をクリックします。
- (2) [Windows システムツール] カテゴリの [コマンドプロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

**補足** [ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。

3. コマンドの格納先ディレクトリーへ移動します。

コマンドの格納先は、次のとおりです。

[{プログラムホーム} %Tool%CollabofTK%Bin]

**補足** {プログラムホーム} は、デフォルトでは、「C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」になります。

4. 実行したいコマンドを、必要な引数やパラメーターと共に入力し、最後に <Enter> キーを押します。

## 2 引数、実行パラメーターの表記方法

コラボスペースInterface Toolkitでは、引数を指定して各アプリケーションの機能にリクエストを送ります。引数の中には、属性値や演算子を使用できます。

この章では、コラボスペースInterface Toolkitで使用する引数、属性値、演算子の表記方法について説明します。

## 2.1 引数の表記方法

引数の表記方法を次に示します。なお、定数文字列は、大文字、小文字の違いに関係なく解釈されます。

表 : 引数の表記方法一覧

型	説明
タスク ID	タスクを特定するための識別子。正整数
コンテンツ ID	コンテンツ（メッセージ、添付ファイル、関連リンク）を特定するための識別子。 正整数
ユーザー DN	ユーザーを特定するためのDN形式 RMS上でユーザーを識別するためのDN形式と同一である
二値型	TRUEまたはFALSE（定数文字列）
日付型	YYYYMMDD、またはYYYYMMDD hh:mmで指定する  例：2021年3月1日→20210301 例：2021年3月1日21時1分→20210301 21:01
期間単位型	期間の長さの単位を指定する型 次の値をとる  Y：年 M：月 W：週 D：日
文字列	文字列を指定する
タスク状態	タスクの状態を表す列挙値 次の値をとる  WAIT：実行待ち EXEC：実行中 CANCELED：中止 COMPLETE：完了 RE_EXEC：再実行中
メンバー遂行状態	タスクメンバーの遂行状態を表す列挙値 次の値をとる  WAIT：開始前 EXEC：実行中 ABORTED：実行不可 FINISHED：終了 COMPLETE：完了 RE_EXEC：再実行中 RE_WAIT：再実行待ち CANCELED：中止

表 : 引数の表記方法一覧

型	説明
拡張タスク状態	「タスク状態」型の値に加えて、次の2つの値をとる  ALL NONE
拡張メンバー遂行状態	「メンバー遂行状態」型の値に加えて、次の2つの値をとる  ALL NONE
タスク属性 ID	カスタムタスク属性のID。文字列 (現在は数字だけで構成されているが、将来変更される可能性があるため、文字列として取り扱う必要がある)
メッセージ属性 ID	ユーザー定義のメッセージ属性のID。文字列 (現在は数字だけで構成されているが、将来変更される可能性があるため、文字列として取り扱う必要がある)
アクセス権	3桁の文字列でタスクのアクセス権を表す  1桁め：タスクのRead権 A：すべて有り（コンテンツへのアクセス権あり） L：コンテンツリストへのアクセス権 I：タスク情報へのアクセス権 -：Read権なし  2桁め：タスクのWrite権 W：あり -：なし  3桁め：タスク接続権 A：上下ともに接続、または切断可能 U：上位だけに接続、または切断可能 D：下位だけに接続、または切断可能 -：接続、または切断不可  この値をメンバー、オブザーバー、関与者外特別ユーザー、関与者以外の各関与タイプに設定するリーダー、およびタスク管理者は常にすべての権利を有する  記述例： AWD タスクへのRead権およびWrite権あり、下位のタスクだけに接続または切断可能
ロケール (* 1)	タスクの言語を指定するために使用する 指定できる値を次に示す ja (日本語)、en (英語)

\* 1: ロケールの詳細については、『システム管理者ガイド』を参照してください。

## 2.2 実行パラメーターの表記方法

実行パラメーターファイルは、XML形式で記述します。

文字コードはシフトJISまたはUTF-8を使用し、ヘッダー行のエンコーディングにはWindows31-JまたはUTF-8を指定してください。要素名は、決められた文字列を大文字や小文字の違いも含めて、正確に記述する必要があります。

記述する要素名は、次のとおりです。

- ・ [parameter 要素](#)
- ・ [serverName 要素](#)
- ・ [logFile 要素](#)
- ・ [resultFile 要素](#)
- ・ [systemProperty 要素](#)
- ・ [userTaskAttrs 要素](#)
- ・ [userTaskAttr 要素](#)
- ・ [charset 要素](#)
- ・ [csvCharset 要素](#)

### 2.2.1 parameter 要素

この要素は、パラメーターファイルのルート要素です。

すべてのコマンドで必ず記述します。記述がない場合は、エラーになります。

次に記述例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<parameter>
  <logFile>c:\tmp\log.txt</logFile>
  <serverName>
    cn=collabo@server,ou=components,dc=ArcSuite
  </serverName>
  <systemProperty>
    <key>com.fujifilm.fb.arcsuite.hostID</key>
    <value>001ABCDEFGHI</value>
  </systemProperty>
  <resultFile>c:\tmp\result.csv</resultFile>
  <userTaskAttrs>
    <userTaskAttr>1011</userTaskAttr>
    <userTaskAttr>1012</userTaskAttr>
    <userTaskAttr>1020</userTaskAttr>
  </userTaskAttrs>
</parameter>
```

## 2.2.2 serverName 要素

---

すべてのコマンドで必ず記述します。記述がない場合は、エラーになります。

コマンドを実行するコラボスペースサーバーを、DN形式またはコンポーネント名で指定します。

コンポーネント名で指定した場合には、cn= {コンポーネント名} ,ou=components, {システム名} というDN形式が指定されたものとみなされます。

リソース管理アプリケーションで、コラボスペースを検索して表示される値のうち、次のどちらかを指定できます。

- ・ コラボスペースの DN[cn=collabo@server,ou=components,dc=ArcSuite]
- ・ 「名前 (必須)」属性の値

## 2.2.3 logFile 要素

---

この要素で記述したパラメーターは、すべてのコマンドで使用できます。

要素内容で指定したファイルが、すでに存在する場合は、追記されます。

要素内容で指定したファイルには、処理の結果が出力されます。また、エラーの場合は、エラー内容も出力されます。

要素内容で指定したファイルには、処理を行ったオブジェクトの個数分の行数が出力され、「操作対象指定パラメーター」を検索条件で指定した場合は、複数行出力されます。また、条件を満たすオブジェクトが存在しない場合は、ヘッダーの1行だけ出力されます。

記述がない場合、ログが標準出力に表示されます。

## 2.2.4 resultFile 要素

---

この要素で記述したパラメーターは、出力結果を持つコマンドでは必ず記述します。それらのコマンドで本要素の記述がない場合は、エラーになります。

要素内容で指定したファイルには、コマンドの結果を出力するファイル名を指定します。指定したファイルが存在する場合は、上書きされます。

要素内容で指定したファイルには、正常に処理が終わった結果だけをCSV形式で出力されます。

出力結果の有無、および出力ファイルのフォーマットは、各機能のインターフェイス詳細を参照してください。複数指定された場合には、どれか1つが選択されます。どの値が使用されるかは不定です。

## 2.2.5 systemProperty 要素

---

「値の名前 (key)」に文字列 (例 : com.fujifilm.fb.arcsuite.hostID) が、「値のデータ (value)」に値がセットされていることを確認します。

## 2.2.6 userTaskAttrs 要素

---

この要素はタスク情報取得コマンドで有効です。

後述するuserTaskAttr要素の親要素です。タスク情報取得コマンドで取得するタスク属性を指定します。複数のuserTaskAttr要素を子に持つことで、複数のタスク属性要素を指定します。

## 2.2.7 userTaskAttr 要素

---

この要素はタスク情報取得コマンドで有効です。

userTaskAttrs要素の子要素です。タスク情報取得コマンドで取得するタスク属性を1つ指定します。

## 2.2.8 charset 要素

---

この要素は添付ファイルをアップロードするコマンド（タスク作成、タスク情報変更、メッセージ登録、メッセージ更新の各コマンド）で有効です。それ以外のコマンドでは効果はありません。

登録するテキストファイルのキャラクターセットを指定します。ファイルがテキストファイル以外の場合、この指定の効果はありません。

指定がない場合、登録先タスクのタスク言語によって自動的に決定されます。

## 2.2.9 csvCharset 要素

---

各コマンドの入力用CSVファイル（操作対象オブジェクト指定ファイル、およびその関連ファイル）、出力用CSVファイル、およびログファイルのキャラクターセットを指定します。

指定がない場合、OSの言語によって自動的に決定されます。



# 3 オブジェクト操作コマンドを実行する

コラボスペースInterface Toolkitで使用するオブジェクト操作コマンドの実行方法について説明します。

## 3.1 タスク情報取得

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定されたタスク情報を取得します。

### コマンド形式

```
kcgettask [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password}] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### [-c]

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### -param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

#### -csv {file}

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

#### -user {userName}

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### [-passwd {password}]

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しなかった場合は、標準入力でパスワードを入力します。

#### [-admin]

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

メッセージや添付ファイルは取得できません。

取得するカスタムタスク属性は、実行パラメーターファイルで指定します。

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで、指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	デフォルト
taskId	取得するタスクをタスクIDで指定する	(* 1)
childTaskOf	タスクIDで指定したタスクの下位タスクを取得する	(* 1)
parentTaskOf	タスクIDで指定したタスクの上位タスクを取得する	(* 1)
participantType	指定した関与タイプで関与するタスクを取得する 次のどれかの値を指定する LEADER：リーダー MEMBER：メンバー OBSERVER：オブザーバー ADMIN：タスク管理者 LIMITED：関与者外特別ユーザー ALL：すべて	(* 1) (* 2)
participantUser	participantTypeを適用するユーザー ParticipantTypeの指定がない場合は意味を持たない	コマンド実行者
includesFinishedTask	完了・中止・終了タスクも取得する。二値型	FALSE (取得しない)
frozen	凍結タスクを取得する。二値型 TRUE：凍結タスクだけを取得する FALSE：非凍結タスクだけを取得する	FALSE
participants	タスク関与者情報を格納するファイルのパスを指定する	関与者情報を取得しない
resolvedParticipants	ユーザーに展開したタスク関与者情報を格納するファイルのパスを指定する	展開済み関与者情報を取得しない

- \* 1: 指定されたパラメーターのうち、どれか 1 つを指定する必要があります。  
ただし、管理者モードの場合に限り、すべてを省略することができ、すべてのタスクが対象となります。管理者モードを指定しないで、すべてのパラメーターを省略したときには、出力結果は 0 件になります。  
複数の条件を指定した場合は、表中、上側の機能が優先的に適用され、それ以外の条件は無視されます（たとえば、taskId と participantType が指定された場合には taskId が有効になり、participantType は無視されます）。  
participants は複数の行で同じファイルを指定できます。  
実行ユーザーに対して秘匿されているタスクは取得されません。  
存在しないタスク、または秘匿されているタスクの ID を指定した場合には、エラーにはならないで、0 件が取得されます。
- \* 2: 「participantType」で「ALL」を指定した場合は、「LEADER + MEMBER + OBSERVER + ADMIN」を指定した場合と同じ結果が取得されます。

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
taskId,childTaskOf,participantType,participants
100,,,c:%work%partticipants.csv
,200
,,LEADER
```

## 出力ファイルの形式

出力ファイルの形式を次に示します。

パラメーター	説明
requestNo	対応する入力ファイルの行番号
taskId	タスクID
taskName	タスク名
taskStart	開始予定日
taskEnd	終了予定日
taskStarted	タスク開始日
taskFinished	タスク終了日
taskStatus	タスク状態
taskAccessMember	メンバーのアクセス権
taskAccessObserver	オブザーバーのアクセス権
taskAccessLimited	関与者外特別ユーザーのアクセス権
taskAccessOther	関与者外のアクセス権
taskColor	タスクカラー (RRGGBB形式)
taskLang	タスク言語のロケール ja (日本語)、en (英語)
taskProgress	タスクの進捗度
taskProgressManually	タスクの進捗度が手動設定ならtrue、自動設定ならfalse
userTaskAttr:XXXX	カスタムタスク属性

### ■ タスク関与者ファイルの形式

パラメーター	説明
requestNo	対応する入力ファイルの行番号
taskId	タスクID
userDn	ユーザー Dn、グループDn、またはロールDn
participantType	ユーザーの関与タイプ
memberStatus	遂行状態 (ユーザーの場合で、かつ関与タイプがメンバーを含む場合のみ)
isUser	ユーザーならtrue、グループまたはロールならfalse

ユーザーの関与タイプが複数ある場合は、「+」で区切ります。

## ■ 展開済みタスク関与者ファイルの形式

パラメーター	説明
requestNo	対応する入力ファイルの行番号
taskId	タスクID
userDn	ユーザー Dn
participantType	ユーザーの関与タイプ
memberStatus	遂行状態（関与タイプがメンバーを含む場合のみ）
isUser	常にtrue

## 3.2 タスク作成

指定された操作対象オブジェクト指定ファイルの情報でタスクを作成します。

### コマンド形式

```
kccreatetask [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password} ] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### [-c]

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### -param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

#### -csv {file}

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

#### -user {userName}

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### [-passwd {password} ]

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しなかった場合は、標準入力でパスワードを入力します。

#### [-admin]

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

なし

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

### ■ タスク位置指定パラメーター

パラメーター	説明	デフォルト
parentTaskOf	タスクIDで指定したタスクの上位タスクとしてタスクを作成する	
childTaskOf	タスクIDで指定したタスクの下位タスクとしてタスクを作成する	
parentTaskLineOf	本ファイル中の指定行で作成されたタスクの上位タスクとしてタスクを作成する	
childTaskLineOf	本ファイル中の指定行で作成されたタスクの下位タスクとしてタスクを作成する	

**注記** parentTaskLineOf パラメーターと childTaskLineOf パラメーターで指定する行の値には、ヘッダー行を含まない値を指定します。

### ■ タスク属性パラメーター

パラメーター	説明	必須	デフォルト
taskName	タスク名	○	
taskStart	開始予定日		コマンド実行日
taskEnd	終了予定日		開始予定日の7日後
taskStatus	タスク状態		WAIT (実行待ち)
taskAccessMember	メンバーのアクセス権		-- (タスク情報のみ)
taskAccessObserver	オブザーバーのアクセス権		-- (タスク情報のみ)
taskAccessLimited	関与者外特別ユーザーのアクセス権		--- (秘匿)
taskAccessOther	タスク関与者外のアクセス権		--- (秘匿)
taskColor	タスクカラー (RRGGBB形式)		0099FF
taskLang	タスク言語のロケール 指定できる値を次に示す ja (日本語)、en (英語)		実行ユーザーのロケール、ない場合はサーバー OSのロケール
mailNotify	メール通知 true : メール通知する false : メール通知しない		true
participants	関与者情報ファイルを指定する		コマンド実行者がタスク管理者
taskProgress	タスク進捗度		0
taskProgressManually	タスク進捗度設定の手動・自動 true : 手動設定 false : 自動設定		false
userTaskAttr:XXXX	カスタムタスク属性		

パラメーター	説明	必須	デフォルト
taskMessage	タスク説明メッセージ タスク説明メッセージファイルを指定する		タスク説明メッセージ なし

**注記** taskStatus パラメーターに COMPLETE を指定すると、エラーになります。

カスタムタスク属性パラメーターのXXXXには、カスタムタスク属性IDを指定します。

カスタムタスク属性の値が空欄の場合は、そのカスタムタスク属性は使用されないものとみなされます。

タスクカラー (taskColor) は、もっとも近いWebSafeColorに自動的に変更されます。

WebSafeColorとは、RR、GG、BBのどのカラーも、00,33,66,99,CC,FFのどれかで表示される色です (例：33CC00)。

タスク言語には、ライセンスのある言語を指定できます (日本語の場合はja、英語の場合はen)。それ以外の値を指定した場合は、エラーになります。

タスク説明メッセージを指定しない場合でも、タスク情報が記載された「タスクの説明」メッセージが作成されます。

タスク進捗度が自動設定の場合には、タスク進捗度で指定された値は無視されます。

タスク進捗度が0未満の場合は0、100以上の場合には100が設定されます。

手動で指定したタスク進捗度は10刻みで設定されます。1の桁は切り捨てられます。

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
childTaskOf,childTaskLineOf,taskName,taskStart,taskEnd,taskStatus,taskAccessMember,taskAccessObserver,taskAccessOther,taskColor,participants,userTaskAttr:1
100,,タスク 100 の下位タスク,20210101,20210131,EXEC,,,---
,cccccc,c:¥work¥participants.csv,300,1,タスク 100 の孫タスク
,20210201,20210215,,AWA,A--,---,cc0000,,
```

## タスク関与者ファイルのパラメーター

タスク関与者ファイルで指定できるタスク指定パラメーターの一覧を次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
userDn	登録するユーザー、グループまたはロールのDnを指定する	○	
participantType	関与タイプを指定する	○	

ひとつの関与者 (ユーザー、グループまたはロール) が複数の関与タイプを持つ場合 (リーダー兼タスク管理者の場合など) は、関与タイプを「+」で結合します。

## タスク説明メッセージファイルのパラメーター

タスク説明メッセージファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
msgType	メッセージのタイプ MSG：メッセージ FILE：ファイル LINK：リンク	○	
msgTitle	メッセージタイプがMSGの場合は指定しない メッセージタイプがFILEの場合はファイルパス メッセージタイプがLINKの場合は、関連リンク の件名を指定する	○ (*1)	
msgContent	メッセージタイプがMSGの場合はメッセージの 内容 メッセージタイプがFILEの場合は指定しない メッセージタイプがLINKの場合は関連リンクの URLを指定する	○ (*2)	
msgExigency	緊急度 (LOW、NORMAL、HIGH) メッセージタイプがMSGの場合にだけ有効		NORMAL
msgUserDefProp	メッセージ属性ID メッセージタイプがMSGの場合にだけ有効		メッセージ属性な し (*3)

\* 1: メッセージタイプが FILE および LINK の場合は必須です。

\* 2: メッセージタイプが LINK の場合は必須です。

\* 3: メッセージタイプが MSG の場合にだけ有効です。

1行めのmsgTypeは必ず「MSG」を指定します。また、1つのファイル内に、msgTypeがMSGである行は1つにし、複数現れないようにしてください。

メッセージのタイプが添付ファイル、関連リンクの場合は、1行めのメッセージへの添付物になります。

タスク作成時、およびタスク更新時の説明メッセージのタイトルは、常に固定値です。

タスク作成時は「タスクの説明」、タスク情報変更時は「タスク情報変更の説明」になります。

msgExigencyが指定された場合でも、メール通知方法（通知有無、逐次/ダイジェスト）には影響ありません。

## 出力ファイルの形式

正常に作成できたタスクのリクエスト行番号とタスクIDのペアを出力します。

パラメーター	説明
requestNo	操作対象オブジェクト指定ファイル内の行番号
taskId	作成されたタスクのタスクID
contentId	タスク説明メッセージのコンテンツID

タスク説明メッセージが作成されなかった場合には、contentIdは0になります。

## 3.3 タスク情報変更

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定されたタスクのタスク情報を更新します。

### コマンド形式

```
kcupdatetask [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password} ] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### [-c]

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### -param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

#### -csv {file}

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

#### -user {userName}

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### [-passwd {password} ]

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しなかった場合は、標準入力でパスワードを入力します。

#### [-admin]

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

本コマンドでは、タスク間関係（タスクの上下関係）は更新できません。

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
taskId	更新するタスクをタスクIDで指定する	○	
taskName	タスク名		現在値を変更しない
taskStart	開始予定日		現在値を変更しない
taskEnd	終了予定日		現在値を変更しない
taskStatus	タスク状態		現在値を変更しない
taskAccessMember	メンバーのアクセス権		現在値を変更しない
taskAccessObserver	オブザーバーのアクセス権		現在値を変更しない
taskAccessLimited	関与者外特別ユーザーのアクセス権		現在値を変更しない
taskAccessOther	関与者外のアクセス権		現在値を変更しない
taskColor	タスクカラー (RRGGBB形式)		現在値を変更しない
taskLang	タスク言語のロケールを指定する 指定できる値を次に示す ja (日本語)、en (英語)		現在値を変更しない
mailNotify	メール通知 true : メール通知する false : メール通知しない		true
participants	関与者情報ファイルを指定する		現在値を変更しない
participantsAdd	追加する関与者情報ファイルを指定する		現在値を変更しない
participantsRemove	削除する関与者情報ファイルを指定する		現在値を変更しない
taskProgress	タスク進捗度を指定する		現在値を変更しない
taskProgressManually	タスク進捗度の手動または自動設定を指定する true : 手動設定 false : 自動設定		現在値を変更しない
userTaskAttr:XXXX	カスタムタスク属性		現在値を変更しない
taskMessage	タスク情報変更メッセージ タスク説明メッセージファイルを指定する		タスク情報変更メッセージなし

指定しなかったパラメーターは変更されません。

taskColorは、もっとも近いWebSafeColorに自動的に変更されます。

WebSafeColorとは、RR、GG、BBのどのカラーも、00,33,66,99,CC,FFのどれかで表示される色です (例: 33CC00)。

taskLangには、ライセンスのある言語を指定できます (日本語の場合はja、英語の場合はen)。それ以外の値を指定した場合は、エラーになります。

participantsAdd/participantsRemoveは、現在のタスク関与者に関与者の追加や削除を行う場合に指定します。適用順序は、participantsRemove、participantsAdd、participantsの順です。したがって、participantsを指定した場合は、participantsAdd、participantsRemoveの指定は無視されます。

participantsAdd/participantsRemoveによる追加や削除は、関与タイプごとに適用されます。現在メンバー兼リーダーであるユーザーに対して、メンバー指定で削除した場合には当該ユーザーはリーダーになります。完全に関与者から削除する場合には、関与者情報ファイルでparticipantTypeをALLで指定する必要があります。

関与者を変更した結果、タスク管理者がいなくなる場合には、コマンド実行者をタスク管理者として登録します。

タスク情報メッセージを指定しない場合でも、タスク情報変更内容が記載された「タスク情報変更の説明」メッセージが作成されます。

タスク進捗度が自動設定の場合には、タスク進捗度で指定された値は無視されます。

タスク進捗度が0未満の場合は0、100以上の場合には100が設定されます。

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
taskId,taskName,taskStatus
100,新しいタスク名,
200,,EXEC
```

## タスク関与者ファイルのパラメーター

タスク関与者ファイルで指定できるタスク指定パラメーターの一覧を次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
userDn	登録するユーザー、グループまたはロールのDnを指定する	○	
participantType	関与タイプを指定する	○	

ひとつの関与者（ユーザー、グループまたはロール）が複数の関与タイプを持つ場合（リーダー兼タスク管理者の場合など）は、関与タイプを「+」で結合します。

## タスク説明メッセージファイル

タスク情報変更のタスク説明メッセージファイルは、タスク作成のタスク説明メッセージファイルと同じです。

**参照** タスク情報変更のタスク説明メッセージファイルについては、[\[3.2 タスク作成\] \(P.26\)](#) を参照してください。

## 出力ファイルの形式

正常に更新できたタスクのリクエスト行番号とタスクIDのペアを出力します。

パラメーター	説明
requestNo	操作対象オブジェクト指定ファイル内の行番号
taskId	更新されたタスクのタスクID
contentId	タスク説明メッセージのコンテンツID

## 3.4 遂行状態変更

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定されたタスクのメンバーの遂行状態を更新します。

### コマンド形式

```
kcchangememstat [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password} ] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### [-c]

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### -param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

#### -csv {file}

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

#### -user {userName}

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### [-passwd {password} ]

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しなかった場合は、標準入力でパスワードを入力します。

#### [-admin]

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

なし

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
taskId	更新するタスクのタスクID	○	
userDn	ユーザー Dn		コマンド実行者
memberStatus	新しい遂行状態	○	

userDnパラメーターを指定しなかったときは、コマンド実行者の遂行状態を変更します。

「実行中」、「再実行中」を指定した場合、現在の遂行状態によって、変更後の遂行状態は「実行中」または、「再実行中」のどちらかになります。

「開始前」、「再実行待ち」を指定した場合、現在の遂行状態によって、変更後の遂行状態は「開始前」、「再実行待ち」のどちらかになります。

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
taskId,userDn,memberStatus
100,"uid=user1,ou=users,dc=jp",CANCELED
100,,EXEC
```

## 出力ファイルの形式

実行した各ユーザーに対して、実行結果の状態を出力します。

パラメーター	説明
requestNo	操作対象オブジェクト指定ファイル内の行番号
taskId	更新したタスクのタスクID
userDn	ユーザー Dn
memberStatus	変更後の遂行状態

## 3.5 タスク接続・切断

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定されたタスク間関係（タスクの上下関係）を接続、または切断します。

### コマンド形式

```
kcupdatetaskrel [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password} ] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### [-c]

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### -param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、`[[drive:][path]parameter-file]` の形式で指定します。省略できません。

#### -csv {file}

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、`[[drive:][path]pfile]` の形式で指定します。省略できません。

#### -user {userName}

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### [-passwd {password} ]

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しなかった場合は、標準入力でパスワードを入力します。

#### [-admin]

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

なし

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
taskRelationOperation	操作内容を指定する ADD：タスク間の接続 DEL：タスク間の遮断		ADD
parentTaskId	上位タスクのIDを指定する	○	
childTaskId	下位タスクのIDを指定する	○	

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
parentTaskId,childTaskId,taskRelationOperation  
100,200,  
100,201,DEL
```

## 出力ファイルの形式

固有の出力はありません。

## 3.6 メッセージ取得

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定されたタスク内のコンテンツ（メッセージ・添付ファイル・関連リンク）を取得します。添付ファイルの実体は取得しません。

### コマンド形式

```
kcgetmsg [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password} ] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### [-c]

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### -param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

#### -csv {file}

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

#### -user {userName}

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### [-passwd {password} ]

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しなかった場合は、標準入力でパスワードを入力します。

#### [-admin]

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

添付ファイルのファイルの実体は取得しません。

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
taskId	メッセージを取得するタスクのID	○	
contentId	取得するメッセージのコンテンツID		指定のない場合は、タスク内のコンテンツ（取得される対象はmsgTypeパラメーターに依存）
msgType	取得するコンテンツの対応 ALL : すべて MSG : メッセージ FILE : 添付ファイル LINK : 関連リンク		ALL
output	成果物限定（二値）		FALSE

contentIdがメッセージのcontentIdを指していた場合には、メッセージおよびその添付物が取得されます。添付物（添付ファイル・関連リンク）のcontentIdを指していた場合には、該当する添付物だけが取得されず。

outputフラグが指定されている場合には、成果物登録できるのは添付ファイルと関連リンクだけです。メッセージ本体はmsgTypeの指定に関わらず出力されません。

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
taskId, contentId
100, 150
100, 160
```

## 出力ファイルの形式

正常に作成できたメッセージの、リクエスト行番号とコンテンツIDのペアを出力します。

パラメーター	説明
requestNo	操作対象オブジェクト指定ファイル内の行番号
taskId	タスクID
contentId	コンテンツID
visibleID	メッセージ番号 (*1)
refContentId	親メッセージのコンテンツID (*3)
msgUserDn	メッセージ作成者
msgPutDate	登録日時
msgModDate	最終変更日時
msgType	メッセージのタイプ (MSG、ILE、LINK)
msgTitle	メッセージのタイトル
msgContent	メッセージの内容 (*4)
msgExigency	緊急度 (LOW、NORMAL、HIGH) (*1)
msgFileSize	ファイルサイズ (*2)
msgEditionKey	エディションキー (*2)
msgEdition	エディション (*2)
msgUserDefProp	メッセージ属性 (*1)
output	成果物フラグ
deleted	削除フラグ (二値型) (*5)

- \* 1: メッセージタイプが MSG の場合にだけ有効です。
- \* 2: メッセージタイプが FILE の場合にだけ有効です。
- \* 3: メッセージタイプが MSG の場合は返信元メッセージ、返信メッセージ以外の場合には 0 です。  
メッセージタイプが FILE、LINK の場合には、添付元のメッセージのコンテンツ ID です。
- \* 4: メッセージタイプが MSG または LINK の場合だけです。
- \* 5: 添付ファイルが文書登録アドオンによって外部リポジトリに「移動」されていた場合にだけ、本属性は true に設定されます。

## 3.7 メッセージ登録

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定されたタスクにメッセージを登録します。

### コマンド形式

```
kcaddmsg [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password}] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### [-c]

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### -param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

#### -csv {file}

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

#### -user {userName}

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### [-passwd {password}]

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しなかった場合は、標準入力でパスワードを入力します。

#### [-admin]

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

なし

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
taskId	メッセージを登録するタスクのID (*1)	○ (*1)	
refContentId	親メッセージのコンテンツID 指定したメッセージの返信メッセージになる		(*2)
msgType	メッセージのタイプ MSG：メッセージ FILE：ファイル LINK：リンク	○	
msgTitle	メッセージタイプがMSGの場合はメッセージの件名 メッセージタイプがFILEの場合はファイルパス メッセージタイプがLINKの場合は、関連リンクの件名を指定する	○	
msgContent	メッセージタイプがMSGの場合はメッセージの内容 メッセージタイプがFILEの場合は指定しない メッセージタイプがLINKの場合は関連リンクのURLを指定する	○ (*5)	
msgExigency	緊急度 (LOW、NORMAL、HIGH)		NORMAL (*2)
msgEditionKey	エディションキー (*3)		
msgUserDefProp	メッセージ属性ID		メッセージ属性なし (*2)
notifyWithAttachment	イントラ外ユーザー及び転送先へのメールに添付ファイルを付加する true：添付ファイルを送付する false：添付ファイルは送付しない		true
notifyForwardTo	登録内容の転送先 転送先のメールアドレスを「;」で区切って記述する (*4)		なし
notifyTo	登録内容の通知先。通知先指定ファイルを指定する		標準の通知先

\* 1: メッセージタイプが MSG の場合は必須です。それ以外では指定しません。

\* 2: メッセージタイプが MSG の場合にだけ有効です。

\* 3: メッセージタイプが FILE の場合にだけ有効です。版追加に使用します。msgEditionKey を指定できる添付ファイルは、1 メッセージにつき 1 つだけです。また、そのファイル以外に添付ファイルがある場合には、そのファイルは登録されません。EditionKey に指定する値は、版追加されるファイルをメッセージ取得コマンドで取得することで入手できます (出力ファイルの msgEditionKey)。また、タスクプレース上でファイル一覧を表示することでも入手できます (版の「:」の左側の数値)。

\* 4: メールアドレスの区切り文字の「;」の前後には、空白および改行が入ってもかまいません。改行する場合には、フィールド全体を 2 重引用符でくくってください。

\* 5: メッセージタイプが FILE の場合は指定しません。

メッセージのタイプが添付ファイル、関連リンクの場合は、操作対象オブジェクト指定ファイル中の直前のメッセージへの添付物になります。本ファイルの1行めのメッセージタイプは、MSGにする必要があります。

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
taskId,refContentId,msgType,msgTitle,msgContent,msgExigency,msgEditionKey,msgUserDefProp
100,0,MSG,"タイトルです。","メッセージの内容です。",NORMAL,0,100
,,FILE,"c:¥work¥添付ファイル.doc",,,,
```

### 通知先指定ファイルの形式

メールの通知先をCSV形式で指定します。通知先は、タスク関係者（タスク管理者を含む）にする必要があります。

タスク関係者以外のユーザーが含まれている場合は、エラーになります。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
userDn	通知先ユーザーのDn (必須)	○	
notifyDirect	逐次メールの送信の有無 true : 送信する false : 送信しない default : デフォルトの送信設定を使用する (省略時は「default」)		default
notifyDigest	ダイジェストメールの送信の有無 true : 送信する false : 送信しない default : デフォルトの送信設定を使用する (省略時は「default」)		default

### 出力ファイルの形式

正常に作成できたメッセージの、リクエスト行番号とコンテンツIDのペアを出力します。

パラメーター	説明
requestNo	操作対象オブジェクト指定ファイル内の行番号
taskId	作成されたメッセージのタスクID
contentId	作成されたメッセージのコンテンツID

## 3.8 メッセージ更新

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定された既存のメッセージを更新します。

### コマンド形式

```
kcupdatemsg [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password} ] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### [-c]

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### -param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

#### -csv {file}

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

#### -user {userName}

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### [-passwd {password} ]

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しなかった場合は、標準入力でパスワードを入力します。

#### [-admin]

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

本コマンドでは、既存の添付ファイルと関連リンクの更新はできません。

版追加機能は使用できません。

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
taskId	更新するメッセージのあるタスクのタスクID (*1)	○	
contentId	更新するメッセージのコンテンツID (*1)	○	
msgType	メッセージのタイプ MSG：メッセージ FILE：ファイル LINK：リンク	○	
msgTitle	メッセージタイプがMSGの場合は変更する件名 メッセージタイプがFILEの場合はファイルパス メッセージタイプがLINKの場合は追加関連リンクの件名を指定する	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>メッセージタイプがMSGの場合は既存値を変更しない</li> <li>メッセージタイプがFILE、LINKの場合は必須</li> </ul>
msgContent	メッセージタイプがMSGの場合は変更する内容 メッセージタイプがFILEの場合は指定しない メッセージタイプがLINKの場合は追加関連リンクのURLを指定する	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>メッセージタイプがMSGの場合は既存値を変更しない</li> <li>メッセージタイプがLINKの場合は必須</li> </ul>
msgUserDefProp	メッセージ属性 (*1)		指定がない場合は変更なし
msgExigency	緊急度 (LOW、NORMAL、HIGH) (*1)		指定がない場合は変更なし
notifyWith Attachment	イントラ外ユーザーおよび転送先へのメールに添付ファイルを付加する true：添付ファイルを送付する false：添付ファイルは送付しない		true
notifyForwardTo	登録内容の転送先転送先のメールアドレスを「;」で区切って記述する (*2)		なし
notifyTo	登録内容の通知先通知先指定ファイルを指定する		標準の通知先

\* 1: メッセージのタイプがMSGの場合にだけ有効です。FILE、LINKの場合は指定しないでください。

\* 2: メールアドレスの区切り文字の「;」の前後には空白および改行が入ってもかまいません。改行する場合には、フィールド全体を2重引用符でくくってください。

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
taskId,contentId,msgType,msgTitle
100,310,MSG,"新しいタイトルです。"
100,350,MSG
,,FILE,"c:¥work¥追加添付ファイル.doc"
```

## 通知先指定ファイルの形式

メッセージ更新の通知先指定ファイルの形式は、メッセージ登録の通知先指定ファイルの形式と同じです。

**参照** メッセージ更新の通知先指定ファイルの形式については、[\[3.7 メッセージ登録\] \(P.40\)](#) を参照してください。

## 出力ファイルの形式

固有の出力ファイルはありません。

## 3.9 添付ファイル取得

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定されたメッセージの添付ファイルを取得します。

### コマンド形式

```
kcgetfile [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password}] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### [-c]

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### -param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

#### -csv {file}

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

#### -user {userName}

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### [-passwd {password} ]

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しない場合は、標準でパスワードを入力します。

#### [-admin]

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

なし

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
taskId	取得する添付ファイルのあるタスクのタスクID	○	
contentId	取得する添付ファイルのコンテンツID	○	
localPath	ファイルを保存するディレクトリー	○	
filename	ファイル名		指定がない場合は添付文書の元のファイル名

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
taskId, contentId, localPath, filename
100, 361, "c:¥work¥download",
100, 362, "c:¥work¥download", "hoge.txt"
```

## 出力ファイルの形式

正常に取得できた添付ファイルの、リクエスト行番号とコンテンツIDのペアを出力します。

パラメーター	説明
requestNo	操作対象オブジェクト指定ファイル内の行番号
contentId	取得した添付ファイルのコンテンツID
filePath	取得したファイルへの絶対パス

## 3.10 検索

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定された条件で検索を実行します。

### コマンド形式

```
kcsearch [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password}] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### **[-c]**

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### **-param {parameter-file}**

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

#### **-csv {file}**

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

#### **-user {userName}**

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### **[-passwd {password}]**

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しない場合は、標準でパスワードを入力します。

#### **[-admin]**

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

なし

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	デフォルト
textKeyword	検索キーワード	
wordOption	検索キーワードの接続方法 AND：AND結合、OR：OR結合	AND
target	検索対象を指定 (TASK,MSG、FILE、LINKを+で結合して指定、 またはALLですべてを指定可能)	TASK+MSG+FILE+LINK
titleOnly	タイトルだけを検索対象にする	FALSE
taskStatus	対象とするタスク状態の指定 拡張タスク状態型を+で結合して指定	ALL
msgAttr	対象とするメッセージ (成果物に関しては、ファイル・関連リンク) を指定 ALL：すべて EXIGENCY：緊急度が「緊急」のときにだけ対象 OUTPUT：成果物であるときにだけ対象 NONE：なし 数値：ユーザー定義属性ID	ALL
dateFrom	検索対象期間の開始日	
dateTo	検索対象期間の終了日	
userKeyword	関与者または投稿者のユーザー名での指定 (前方一致)	
stemming	英単語変化形検索 (ステミング検索) するかどうか TRUE：する FALSE：しない	FALSE
rootTaskId	検索するタスクの範囲指定時の下位タスクの基点となるタスクID	
depth	下位タスクを探索する深さ (0以上の整数値)	深さ無制限
prop_p_#	カスタムタスク属性のID	
prop_v1_#	カスタムタスク属性の値1	
prop_v2_#	カスタムタスク属性の値2	
prop_c_#	#番めと (#-1) 番めのカスタムタスク属性の結合方式 (AND、OR、AND_NOT)	AND

prop\_v2が指定できるのは、タスク属性の型が数値型、日付型の場合だけです。v1、v2でそれぞれ値の下限値、上限値を指定します。

dateFromおよびdateToは、日付だけが有効になり、時刻の値は無視されます。dateFromの時刻は00:00、dateToは23:59と解釈されます。

msgAttrは、指定する属性を「+」でつなぐと、複数指定できます。

rootTaskIdは、タスクIDを「+」でつなぐと、複数指定できます。

depth=0のときは、rootTaskIdに指定されたタスクだけが検索対象になります。

targetにFORM (フォームデータ)、CIRC (回覧文書) を指定すると、正当な値以外のため、エラーになります。

### 3 オブジェクト操作コマンドを実行する

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
textKeyword,target,dateFrom,titleOnly,prop_p_1,prop_v1_1,prop_c_2,prop_p_2,prop_v2_1  
"自動車",MSG,20210301,TRUE,,,,,  
,,20210301,FALSE,100,"東京",AND,200,"名古屋"
```

## 出力ファイルの形式

正常に取得できた添付ファイルの、リクエスト行番号とコンテンツIDのペアを出力します。

パラメーター	説明
requestNo	操作対象オブジェクト指定ファイル内の行番号
score	スコア
objectType	発見されたオブジェクトのタイプ TASK：タスク MSG：メッセージ FILE：添付ファイル LINK：関連リンク
taskId	タスクID
contentId	コンテンツID
taskName	タスク名
objectName	オブジェクトの名称 オブジェクトのタイプによって異なる TASK：(なし) msg：メッセージの件名 file：ファイル名 link：リンク名
taskStatus	タスク状態 (オブジェクトのタイプがタスクの場合のみ)

## 3.11 コンテンツ削除

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定されたコンテンツ（メッセージ、添付ファイル、または関連リンク）を削除します。

### コマンド形式

```
Kcdeletecontent [-c] -param {parameter-file} -csv {file} -user {userName} [-passwd {password} ] [-admin]
```

### コマンドパラメーター

#### [-c]

処理中にエラーが発生した場合に処理を続行します。

#### -param {parameter-file}

実行パラメーターファイルの名前を、「[drive:][path]parameter-file」の形式で指定します。省略できません。

#### -csv {file}

操作の内容を指定した、操作対象オブジェクト指定ファイルのファイル名を、「[drive:][path]file」の形式で指定します。省略できません。

#### -user {userName}

リソース管理サービスに登録されているユーザー IDを指定します。省略できません。

#### [-passwd {password} ]

-userパラメーターで指定したユーザー IDに対応するパスワードを指定します。-passwdパラメーターを指定しない場合は、標準でパスワードを入力します。

#### [-admin]

管理者モードでコマンドを実行する場合に、指定します。

### コマンド戻り値

コマンドの処理がすべて正常に終了した場合は、「0」を返します。

コマンドの処理に1つでもエラーが発生した場合は、「1」を返します。

### エラー

次の場合は、エラーになります。

- ・入力ファイルに記述ミスがあった場合
- ・必須パラメーターが記述されていなかった場合
- ・余計なパラメーターが記述されていた場合
- ・何らかの原因でコラボスペースでエラーが発生した場合

### 備考

なし

## 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーター

操作対象オブジェクト指定ファイルで指定できるパラメーターを次に示します。

パラメーター	説明	必須	デフォルト
taskId	削除するコンテンツのあるタスクのタスクID	○	
contentId	削除するコンテンツのコンテンツID	○	

操作対象オブジェクト指定ファイルの記述例を示します。

```
taskId, contentId
100, 361
100, 362
```

## 出力ファイルの形式

正常に削除したファイルの、リクエスト行番号とコンテンツIDのペアを出力します。

パラメーター	説明
requestNo	操作対象オブジェクト指定ファイル内の行番号
taskId	削除に成功したコンテンツのタスクID
contentId	削除に成功したコンテンツのコンテンツID

## 3.12 機能上の制約

---

### 操作対象オブジェクト指定ファイルのパラメーターについて

操作対象オブジェクト指定ファイル中に各コマンドで解釈されないパラメーターが指定された場合は、エラーにはならないで、無視されます。パラメーターを間違えて指定すると、必須パラメーター以外はデフォルト値で処理されます。

### 出力ファイルとログでのリクエスト行について

各コマンドの出力ファイルで出力されるrequestNo、およびログでの行番号は、操作対象オブジェクト指定ファイルの論理行です。つまり、テキストデータ中に改行などが含まれる場合には、1行とみなされます (Microsoft Excelで開いた場合の1レコードに相当します)。

操作対象オブジェクト指定ファイルのヘッダー行はカウントされません。最初のリクエストが第1行となります。また、空白行は論理行としてはカウントされません。



# 付録

コラボスペースInterface Toolkitのインストールとアンインストールの方法、ArcSuiteのコラボスペースタスク操作URLのうち、『コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド』に記載されていない機能、およびWindowsのファイアウォール機能に対する設定内容について説明します。

## 付録 A インストールとアンインストール

コラボスペースInterface Toolkitのインストール、アンインストール方法について説明します。

### 付録 A.1 インストールの前に確認すること

コラボスペースInterface Toolkitのインストール先、ArcSuiteをインストールしたときの [データベースのサーバー情報] 画面、[データベースのRMS用ユーザー情報] 画面、または [データベースのRMS参照専用ユーザー登録] 画面で設定した情報をあらかじめ確認しておきます。

次の項目を確認します。

#### ■ インストール先

コラボスペースInterface Toolkitのインストール先を確認します。

**補足** 初期値は「{インストールするドライブ} :¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite¥Tool¥CollaboIFTK」です。

#### ■ RMS 用データベースのサーバーの情報

次の情報を確認します。

- ・サーバー名
- ・ポート番号
- ・グローバルデータベース名

**補足** ArcSuite のインストールのとき、[データベースのサーバー情報] 画面で入力した情報です。

#### ■ RMS 用ユーザーの情報

RMS用のユーザー名を確認します。

**補足** 初期値は「rms」です。ArcSuite のインストールのとき、[データベースのRMS用ユーザー情報] 画面で入力した情報です。

#### ■ RMS 用参照用ユーザーの情報

次の情報を確認します。

- ・ユーザー名
- ・パスワード

**補足** ・ユーザー名の初期値は、「rmsclient」です。  
・パスワードは、ArcSuite のインストールのとき、[データベースのRMS参照専用ユーザー登録] 画面で入力した情報です。

## 付録 A.2 インストール

次の手順でコラボスペースInterface Toolkitをインストールします。

**注記** 接続可能なコラボスペースは、ArcSuite 4.0 だけです。

**参照** 古いバージョンがインストールされている場合は、[\[付録 A.5 バージョンアップ\] \(P.58\)](#) を参照してください。

1. コラボスペース Interface Toolkit をインストールする PC に Administrator 権限でサインインします。

**注記** サインインするユーザー名には、全角スペースまたは次の文字を含めないでください。全角スペースまたは次の文字が含まれていると、インストールのときにエラーになります。

∨ (全称記号)、— (ダッシュ)、一 (漢数字の 1)、稀、紀、儀、言、最、部、需、退、刀、謀、堀、耀、椀、囿、愀、戀、攀、簧、蜀、B (ギリシャ字のベータ)、T (ギリシャ字のタウ)、逢、栢、漢、索、嬢、琢、夢、尢、崢、梱、鳩、癩、滕、菴、籠、蠹、錢、鬢

2. 「ArcSuite 4.0 SDK」インストールメディアを、ドライブにセットします。

3. 「{インストールメディア} ¥CollaboIFTK¥setup.exe」をダブルクリックします。  
[コラボスペース Interface Toolkit セットアップへようこそ] 画面が表示されます。

4. [次へ] をクリックします。  
[ユーザー情報] 画面が表示されます。

**補足** 必要なソフトウェアがインストールされていない場合は、インストールを促す画面が表示されます。その場合は、表示されているソフトウェアをすべてインストールしてください。

インストール後、再起動が必要な場合は、再起動したあと、手順 1 から操作してコラボスペース Interface Toolkit をインストールしてください。

5. [ユーザー名] と [会社名] を入力します。

**補足** [ユーザー名] と [会社名] には、OS に設定した内容を入力します。

6. [次へ] をクリックします。  
[インストール先の選択] 画面が表示されます。

7. コラボスペース Interface Toolkit のインストール先を確認します。

**補足** ・インストール先の初期値は、「{インストールするドライブ} :¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite¥Tool¥CollaboIFTK」です。

・[参照] をクリックして、インストール先を変更できます。

8. [次へ] をクリックします。  
[RMS 用データベースのサーバー情報] 画面が表示されます。

9. RMS が使用するデータベースの情報を確認します。

10. [次へ] をクリックします。  
[RMS 用ユーザー情報] 画面が表示されます。

11. RMS に接続するユーザーの [ユーザー名] を入力します。

12. [次へ] をクリックします。  
[RMS 参照用ユーザー情報] 画面が表示されます。

13. RMS に接続する参照用ユーザーの [ユーザー名] と [パスワード] を入力します。

14. [次へ] をクリックします。  
[ファイルコピーの開始] 画面が表示されます。

**15.**インストールする内容を確認し、[次へ] をクリックします。

インストールが開始されます。

インストールが終了すると、[セットアップの完了] 画面が表示されます。

**補足** 設定内容を変更する場合は、[戻る] をクリックし、変更する画面まで戻ります。

**注記** ファイアウォールサービスが起動している場合は、インストールの開始前にファイアウォールの設定を確認する画面が表示されます。

設定する場合は [はい] を、すでに手で設定済み、または Windows ファイアウォールを使用しない場合は、[いいえ] を選択してください。

**16.**[完了] をクリックします。

これで、コラボスペースInterface Toolkitのインストールは終了です。

## 付録 A.3 インストールの内容

コラボスペースInterface Toolkitをインストールすると、コラボスペースInterface Toolkitのインストール先として指定したディレクトリーに、次のディレクトリーが作成されます。

ディレクトリー名	説明
Bin	コラボスペースInterface Toolkitのコマンド群とデフォルトの実行パラメーターのファイルが格納されています。
Conf	コラボスペースInterface Toolkitの設定ファイルが格納されています。
Java	コラボスペースInterface Toolkitが使用するJavaが格納されています。
Lib	コラボスペースInterface Toolkitが使用するライブラリー群が格納されています。

**注記** コラボスペース Interface Toolkit のインストールでは、環境変数 [PATH] を設定しません。そのため、コラボスペース Interface Toolkit の各コマンドを実行するには、各コマンドへのフルパスを指定するか、環境変数 [PATH] に [bin] へのパスを設定してください。

## 付録 A.4 アンインストール

次の手順で、コラボスペースInterface Toolkitをアンインストールします。

**1.** [コントロールパネル] 画面を表示します。

## ◆ Windows 8.1 の場合

(1) Windows の [スタート] ボタンを右クリックし、[コントロールパネル] を選択します。

## ◆ Windows Server 2016、Windows Server 2019、Windows 10 の場合

(1) Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コントロールパネル] を選択します。

**2.** [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。

[プログラムのアンインストールまたは変更] 画面が表示されます。

**3.** [ArcSuite コラボスペース Interface Toolkit] を選択し、[アンインストール] をクリックします。

[ArcSuite コラボスペース Interface Toolkit のアンインストール] 画面が表示されます。

**4.** [次へ] をクリックします。

[アンインストールの確認] 画面が表示されます。

5. [OK] をクリックします。  
アンインストールが開始されます。  
アンインストールが終了すると、[アンインストールの完了] 画面が表示されます。
6. [完了] をクリックします。

これで、コラボスペースInterface Toolkitのアンインストールは終了です。

## 付録 A.5 バージョンアップ

---

次の手順で、コラボスペースInterface Toolkitをバージョンアップします。

1. 事前に、次のことを確認します。  
コラボスペース Interface Toolkit のインストール先 ArcSuite をインストールしたときの [データベースのサーバー情報] 画面、[データベースの RMS 用ユーザー情報] 画面、または [データベースの RMS 参照専用ユーザー登録] 画面で設定した情報をあらかじめ確認します。  
**参照** 詳細については、[\[付録 A.1 インストールの前に確認すること\] \(P.55\)](#) を参照してください。
2. 古いバージョンのコラボスペース Interface Toolkit をアンインストールします。  
**参照** 詳細については、[\[付録 A.4 アンインストール\] \(P.57\)](#) を参照してください。
3. 新しいバージョンのコラボスペース Interface Toolkit をインストールします。  
**参照** 詳細については、[\[付録 A.2 インストール\] \(P.56\)](#) を参照してください。

## 付録 B コラボスペースタスク操作 URL (更新機能)

---

コラボスペースタスク操作URLのうち、『コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド』に記載されていない機能について説明します。

### 付録 B.1 コラボスペースタスク操作 URL の概要

---

コラボスペースタスク操作URLは、SEやサードベンダーなどのアプリケーション開発者向けに用意されたURLです。コラボスペースの機能を利用するためのインターフェイスになります。

#### 付録 B.1.1 概要

---

コラボスペースタスク操作URLのうち、『コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド』に記載されていない機能について説明します。

**参照** コラボスペースタスク操作 URL の概要については、『コラボスペースタスク操作 URL リファレンスガイド』をご覧ください。

##### ◆ タスク、遂行状態変更

タスク状態、遂行状態を変更します。変更後はタスクプレースを表示します。本機能ではタスクID、タスク状態、ユーザー Dn、遂行状態を指定します。実行後はタスクプレースを表示します。

#### 付録 B.1.2 インストール方法

---

『コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド』の「1.2 インストール方法」を参照してください。

#### 付録 B.1.3 操作上の留意点

---

『コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド』の「1.3 操作上の留意点」を参照してください。

### 付録 B.2 引数の表記方法

---

コラボスペースタスク操作URLでは、引数を指定して各アプリケーションの機能にリクエストを送ります。コラボスペースタスク操作URLで使用する、引数の表記方法について説明します。

#### 付録 B.2.1 引数の表記方法

---

『コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド』の「2.1 引数の表記方法」を参照してください。

### 付録 B.3 コラボスペースタスク操作 URL のインターフェイス詳細

---

コラボスペースタスク操作URLの共通ユーザーインターフェイス、および各URLインターフェイスの詳細について説明します。

#### 付録 B.3.1 共通ユーザーインターフェイス

---

『コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド』の「3.1 共通ユーザーインターフェイス」をご覧ください。

## 付録 B.3.2 URL インターフェイス

『コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド』の「3.2 URLインターフェイス」をご覧ください。

## 付録 B.3.3 タスク・遂行状態変更

タスク状態、メンバー遂行状態を変更します。

### パス

```
/ArcSuite/collabo/changeStatus
```

### 引数形式 1

指定したタスクのタスク状態を変更します。

```
taskId=taskId1&taskStatus=taskStatus1
```

### ■ 例

```
http://www.sample.com/ArcSuite/collabo/changeStatus?
taskId=100&taskStatus=CANCELED
```

### ■ 引数

表：タスク状態変更の引数形式 1 で使用する引数一覧

名前	説明	型	単/多	必須	デフォルト	列挙値
taskId	注目タスクのタスクID	タスクID	単	○		
taskStatus	新しいタスク状態	タスク状態	単	○		

### ■ エラー

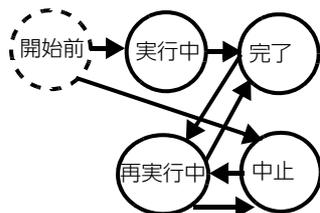
次の場合は、エラーになります。

- ・ 操作を行う権利がない場合
- ・ 管理者権限がない場合
- ・ 操作が凍結されたタスク、またはアーカイブされたタスクには使用できない場合
- ・ タスクへのアクセス権がないか、タスクが存在しない場合

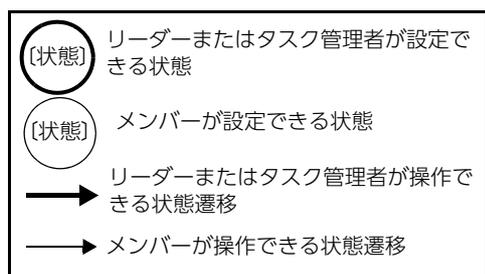
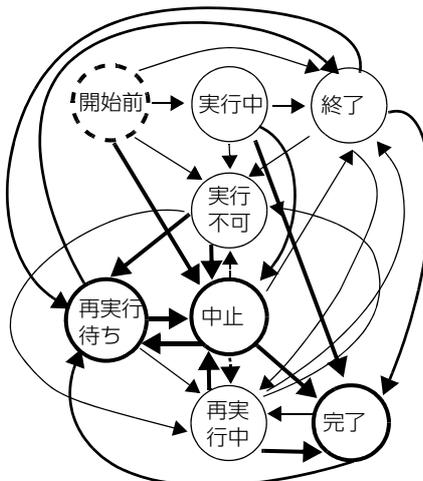
## ■ 注意事項

タスク状態は、現在の状態から直接遷移できない状態には変更できません。次に、状態遷移を示します。

(a) タスク全体の状態



(b) 各メンバーの遂行状態



**参照** 各状態の列挙値については、[\[2.1 引数の表記方法\]](#) (P.16) を参照してください。

## 引数形式 2

指定したメンバーの遂行状態を変更します。

```
taskId=taskId1&userDn=userDn1&memberStatus=memberStatus1
```

## ■ 例

```
http://www.sample.com/ArcSuite/collabo/changeStatus?
taskId=100&userDn=uid%3Duser1%2cou%3Dusers%2cdc%3DFUJIFILM%2cdc%3Djp&memberStat
us=EXEC
```

## ■ 引数

表：メンバー遂行状態変更の引数形式 2 で使用する引数一覧

名前	説明	型	単/多	必須	デフォルト	列挙値
taskId	注目タスクのタスクID	タスクID	単	○		
userDn	遂行状態を変更するユーザーDn	ユーザー Dn	単	○ (*1)	ログインユーザー	
memberStatus	新しいメンバー遂行状態	メンバー遂行状態	単	○		

\* 1: ユーザー ID 省略時は、ログインユーザーを使用します。

## 付録 C Windows のファイアウォール機能に対する設定内容

ArcSuiteのインストーラーは、Windowsのファイアウォールサービスが稼働している場合、必要な設定を自動的に行います。ここでは、その設定内容について記載します。

### 付録 C.1 Windows のファイアウォール機能について

Windowsのファイアウォール機能には、「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」と「Windowsファイアウォール」の2種類が存在します。

ArcSuiteのインストーラーでは、「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」が利用可能な環境では、「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」に対して設定を行います。利用できない場合は、「Windowsファイアウォール」に対して設定を行います。

**補足** Windows のファイアウォールのサービスが停止している場合は、設定を行いません。

### 付録 C.2 「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」に対する設定

「セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール」は、送受信全体の拒否/許可、個々の通信を拒否/許可する規則を登録することで設定を行います。

表：「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」の挙動と設定方法

通信の向き	デフォルトの挙動	設定方法
受信	すべて拒否	「規則」を登録することで、受信の許可または拒否を設定できる
送信	すべて許可	「規則」を登録することで、送信の許可または拒否を設定できる

**補足** 「規則」には、プログラムとポートのどちらも指定可能です。ArcSuiteのインストーラーでは、ポートを指定する場合には、プログラムの指定はせずに「規則」を登録します。逆に、プログラムを指定する場合には、ポートは指定せずに「規則」を登録します。

**参照** ArcSuiteのインストーラーで登録される「例外」については、[\[付録 C.4 登録される「例外」、\[規則\]一覧\] \(P.64\)](#) を参照してください。

次に、ArcSuiteのインストーラーが「規則」に指定する値を示します。

表：インストーラーが登録する「規則」の設定値

規則のタイプ [ポート/ プログラム]	設定区分	項目名	設定値 (太字：「規則」で共通の値 太字以外：「規則」ごとに異なる値)
ポート	全般	名前	プログラムごとの名前
		説明	プログラムごとの説明（名前と同じ値）
		操作	接続を許可する
	プログラムおよびサービス	プログラム	指定なし
		サービス	指定なし
	リモートコンピューター	承認されているコンピューター	指定なし
		例外	指定なし
	プロトコルおよびポート	プロトコルの種類	TCP
		ローカルポート	プログラムごとのポート
		リモートポート	プログラムごとのポート
	スコープ	ローカルIPアドレス	任意の IP アドレス
		リモートIPアドレス	任意の IP アドレス
	詳細設定	プロファイル	すべてのプロファイル
		インターフェイスの種類	指定なし
		エッジトラバーサル	指定なし
プログラム	全般	名前	プログラムごとの名前
		説明	プログラムごとの説明（名前と同じ値）
		操作	接続を許可する
	プログラムおよびサービス	プログラム	プログラムごとのパス
		サービス	指定なし
	リモートコンピューター	承認されているコンピューター	指定なし
		例外	指定なし
	プロトコルおよびポート	プロトコルの種類	TCP
		ローカルポート	すべてのポート
		リモートポート	すべてのポート
	スコープ	ローカルIPアドレス	任意の IP アドレス
		リモートIPアドレス	任意の IP アドレス
	詳細設定	プロファイル	すべてのプロファイル
		インターフェイスの種類	指定なし
		エッジトラバーサル	指定なし

## 付録 C.3 「Windows ファイアウォール」 に対する設定

「Windowsファイアウォール」は、すべての受信を拒否する動作に対し、例外を設けることで設定を行います。

表：「Windows ファイアウォール」の挙動と設定方法

通信の向き	挙動	設定方法
受信	すべて拒否（固定）	「例外」を登録することで、受信の許可を設定
送信	すべて許可（固定）	設定不可

**補足** 「例外」には、プログラム、または、ポートのどちらかが指定可能です。

**参照** ArcSuite のインストーラーで登録される「例外」については、[「付録 C.4 登録される「例外」、「規則」一覧」\(P.64\)](#) を参照してください。

「例外」の項目と値は、次の表に示すとおりです。

表：インストーラーが登録する「例外」の設定値

例外のタイプ [ポート/プログラム]	項目名	値 (太字：「例外」で共通の値 太字以外：「例外」ごとに異なる値)
ポート	名前	プログラムごとの名前
	パス	プログラムごとのパス
	スコープ	指定なし
プログラム	名前	プログラムごとの名前
	ポート番号	プログラムごとのポート番号
	スコープ	指定なし

## 付録 C.4 登録される「例外」、「規則」一覧

ArcSuiteのインストーラーがWindowsのファイアウォール機能に対して登録する、「例外」または「規則」を示します。

### 付録 C.4.1 プログラムを指定して登録される「例外」、「規則」の一覧

表：インストーラーが登録するプログラム指定の「規則」、「例外」一覧

名前	プログラムのパス	「例外」または「規則」の設定条件
ArcSuite CollaboSpace Interface Toolkit	{ArcSuiteのインストールディレクトリ} ¥ Tool¥CollaboIFTK¥Java¥jre¥bin¥java.exe	コラボスペースIFTKインストール時

**補足** コラボスペース Interface Toolkit のインストーラーでは、ポートを指定して登録される「例外」、「規則」はありません。